



公益財団法人日本ユニセフ協会協定地域組織
佐賀県ユニセフ協会通信 (No. 95) uniwish22号 (2016年9月)
佐賀県佐賀市水ヶ江四丁目2番2号

(電話・FAX) 0952-28-2077
(業務時間) 月・火・木・金 10:00~15:00

E-mail unicef-saga@ams.odn.ne.jp

ホームページ <http://www.saga-unicef.jp/>

facebook <http://www.facebook.com/unicef.saga>



エルニーニョ報告書

子どもたちへの影響は終息せず

東部・南部アフリカ2,650万人が支援必要
世界で飢餓、栄養不良、病気の蔓延に警鐘

【2016年7月8日 ナイロビ (ケニア) / ニューヨーク発】

ユニセフ (国連児童基金) は、2015年から2016年にかけてのエルニーニョ現象は終息を迎えたものの、過去最強レベルのエルニーニョが引き起こした深刻な干ばつや洪水によって飢餓、栄養不良、病気は増え続けており、子どもたちへの破壊的な影響は悪化している、と発表しました。



©UNICEF/UN023950/Clark

半月前、祖母に連れられ50km離れた村から保健施設に担ぎ込まれた、重度の急性栄養不良の治療を受けるトゥハフェニくん (1歳半)。エルニーニョの影響により干ばつと洪水が繰り返して発生したアンゴラでは、多くの子どもたちが重度の急性栄養不良に苦しんでいる。

エルニーニョの影響に関する報告書を発表

また、今後年内に、エルニーニョの逆の現象であるラニーニャが被害をもたらす可能性が高く、それによって、もっとも脆弱なコミュニティに暮らす何百万もの子どもたちに影響を与えている重大な人道危機が、さらに深刻になる危険があると、ユニセフの報告書『エルニーニョは終わっていない—子どもたちへの影響』は指摘しています。

飢餓が、もっとも影響を受けている地域の子どものために襲いつつあります。もっとも深刻な被害を受けている東部・南部アフリカでは、2,650万人の子どもたちが支援を必要としており、その中には、重度の急性栄養不良により治療が必要な100万人以上の子どもたちも含まれています。

多くの国では、すでに逼迫している資源が、限界を迎えています。人々は持っている物を売ったり、食事を抜くなどできることはやり尽くしました。幼い子どもたちへの緊急栄養支援などの支援がすぐに、より多く届かなければ、この数十年にわたる開発の前進は損なわれてしまいます。



報告書『エルニーニョは終わっていない—子どもたちへの影響』
(原題: It's not over - El Niño's impact on children)』

感染症蔓延の脅威も

ユニセフはまた、エイズ流行の中心であるアフリカ南部において、エルニーニョの影響によってHIV感染が増加するという重大な懸念があることを指摘しています。患者は、空腹時には薬を服用しない傾向にあり、また多くの人々は、限られたお金を保健施設へ行く交通費よりも食べ物を確保することに使うため、食糧不足が抗レトロウイルス薬へのアクセスを妨げる結果となるのです。干ばつはまた、少女や女性たちに、生きるために売春することを強いることもあります。

さらに、HIVとともに生きる子どもの死亡率は、重度の栄養不良の場合はそうでない場合に比べて2倍から6倍になります。また、多くの国で、エルニーニョは安全な水へのアクセスに影響を与え、その結果子どもたちの命を奪うデング熱、下痢、コレラといった病気が増加しました。南米、特にブラジルでは、エルニーニョはジカ熱、デング熱、黄熱病、チクングニア熱といった病気を媒介する蚊が増殖しやすい環境を生み出しました。もしラニーニャ現象が広がれば、これまで影響を受けていなかった地域へもジカ熱が広がる可能性があります。

「ラニーニャが人道危機を悪化させる事態に備える支援も必要です。また、より強力で頻度の高い異常気象を引き起こす気候変動への適応と減災を強化する支援もしなければなりません」とユニセフの緊急支援プログラム部部長のアフシャン・カーン

は述べました。「同じ子どもが、エルニーニョの影響を受け、ラニーニャの脅威にさらされ、気がつくとき気候変動の最前線に立たされているのです」

影響を受けている国

この数十年でも例をみない深刻な被害が広がるアフリカ

アフリカ地域全体で、数百万人もの子どもたちが飢餓や水不足、病気のリスクに直面しています。異常気象による食糧の不作や、食糧価格の高騰の影響で状況は悪化し、家族は食事を抜いたり、生活に必要な財産を売ったりするなど、極端な対処方法を取らざるを得ない状況に追い込まれています。

東部・南部アフリカの状況は特に深刻で、たとえば、エチオピアはいま、この数十年で最悪レベルの干ばつに見舞われています。人道支援のニーズは、昨年比の3倍に膨れ上がっています。緊急の食糧支援を必要とする人は、1,000万人以上（総人口の10%以上）。また、600万人に及ぶ子どもたちが、飢餓や病気、水不足の危険に直面しています。



©UNICEF/UN022636/Chikondi

- ・アンゴラ：140万人（内75.6万人が子ども）が食糧危機。9万6,000人の子どもが重度の急性栄養不良。
- ・スワジランド：30万人（人口の1/4近く）に干ばつの影響。
- ・レソト：53万人（内31万人が子ども）が食糧危機。子どもの12.3%が慢性的な栄養不良。
- ・マラウイ：280万人（内150万人が子ども）が食糧危機。5歳未満児の半数に発育阻害の兆候。
- ・エリトリア：特に低地で5歳未満児の栄養不良が深刻。
- ・エチオピア：過去50年で最悪の干ばつ被害。1,020万人（内600万人が子ども）に食糧支援が必要になる見込み。
- ・マダガスカル：干ばつが深刻な南部で、その地域人口の80%に相当する110万人が食糧危機。
- ・ジンバブエ：280万人（内150万人が子ども）が食糧危機。
- ・ソマリア：38万5,000人が食糧危機。緊急支援がなければさらに130万人が食糧危機に陥る恐れ。急性栄養不良の5歳未満児が10万人。
- ・モザンビーク：150万人が食糧危機。今後19万人の子どもが栄養不良に陥る恐れ。

ユニセフの活動

ユニセフは、政府やパートナー団体とともに、栄養不良に陥っている子どもへの治療の実施など、保健・栄養・水と衛生・教育・子どもの保護の分野で活動を行っています。

以下に、その活動の一部をご紹介します。（2016年7月13日時点）

- ・急性栄養不良の子どもの治療。エチオピアでは50万箱のすぐ口にできる栄養治療食を提供。
- ・緊急医療ケアを提供。
- ・安全な飲み水の提供。東部・南部アフリカでは2016年、6月末までにおよそ270万人に安全な飲み水を提供。
- ・移動式予防接種巡回サービスを実施。
- ・健康や衛生の習慣を改善するために地域住民を動員。
- ・HIVに関する教育や支援を提供。東部・南部アフリカだけで2016年、6月末までに10万人以上に支援を提供。
- ・学校が閉校することなく、子どもたちに食事や安全な水を提供できるよう支援。
- ・子どもを児童労働などの危険から守るため、最も脆弱な家族に食糧や金銭的な支援の実施。



©UNICEF/UN024081/Rich

【資料提供：日本ユニセフ協会】

ユニセフはアフリカ干ばつ緊急募金に取り組んでいます。みなさまのご支援をよろしくお願いします。

前号では、2015年までに達成すべき国際社会共通の目標としてまとめられた「ミレニアム開発目標（MDGs）」に向けた15年間の取り組みの成果をみてみました。今回は、持続可能な開発目標（SDGs）についてご紹介します。

持続可能な開発目標（SDGs）

2015年9月、国連サミットで採択された「持続可能な開発目標（Sustainable Development Goals, SDGs）」社会・経済・環境面における「持続可能な開発」を目指す、先進国も途上国も含めた国際社会共通の目標です。

2030年までのSDGs

ミレニアム開発目標（MDGs）との違いは？

2015年までのMDGs達成に向けた取り組みでは、平均値で見ると様々な前進がありました。その陰に格差も残りました。そのためSDGsは、格差をなくす（”誰ひとり取り残さない”）ことを重要な柱にしています。SDGsは、MDGsの課題に引き続き取り組むとともに、MDGsには含まれていなかった様々な課題も加えた、包括的な目標です。

17の目標 SDGsの柱となる目標（Goal）です。



1. 貧困の撲滅

あらゆる場所で極度の貧困を撲滅



2. 飢餓の撲滅

飢餓を撲滅し、すべての人が一年を通して栄養のある十分な食糧を確保できるように



3. 健康と幸福度

エイズ・結核・マラリアなどの流行をなくす



4. 教育

教育におけるジェンダー格差をなくし、弱い立場にある人々に平等な教育機会を保障



5. ジェンダーの平等

すべての女性と女子に対するあらゆる形態の差別を撤廃



6. 安全な水と衛生の保障

すべての人の安全で安価な水への平等なアクセスを達成し屋外排泄をなくす



7. 持続可能なエネルギーの確保

すべての人が利用可能な信頼性が高く持続可能な現代的エネルギーの確保



8. 持続可能な経済成長と人にふさわしい仕事の推進



9. すべての人のための技術の開発と普及



10. 不平等の削減

年齢・性別・障がい・人種などに関わらず誰もが受け入れられる社会、経済、政治を促進



11. 安全なまち・地域社会への転換



12. 責任ある消費と生産の確保



13. 気候変動への対応



14. 海洋資源の保護



15. 地球環境の保護



16. 平和で誰もが受け入れられる社会の実現



17. 目標（SDGs）達成のための仕組みと国際協力の強化

SDGsの目標達成に向けての取り組みも、政府だけでなく、民間企業や市民社会、そして子どもたち自身が参加し力を発揮することが期待されています。

【資料提供：日本ユニセフ協会】



- 7月13日（水） ユニセフ出前授業 神崎市ドリームパーク
- 7月20日（水） 「水から世界をかんがえよう」（神埼小学校）
- 7月28日（木） ユニセフパネル展・地雷レプリカ展
「ピースアクション2016」にて（佐賀市アバンセ）
- 8月4日（木）～7日（日）
第25回佐賀市平和展 ～語り継ごう、平和の尊さ～ （佐賀市立図書館2F）
地雷レプリカ展「地雷ってどんなもの？」
パネル展「危機のなかの子どもたち～アフガニスタン～」



- 8月5日（金） ユニセフ学習&募金贈呈 佐賀こども劇場のみなさん （事務所）
- 8月27日（土） 佐賀NGOネットワーク（SaNN）設立総会（佐賀市民活動プラザ）

これからの予定

- 10月9日（日） 2016さが国際フェスタ The Asian Day （佐賀商工ビル 佐賀県国際交流プラザ）
①世界のカレーまつり
②講演会「すべての子どもに教育を～インド女子教育視察報告会～アッサム州の事例～」
※詳細は同封のチラシをごらんください。
- 10月9日（日）～10月14日（金） パネル展 （佐賀商工ビル1F）
「ポリオのない世界へ」「ポリオを克服したインドの記録」
- 10月16日（日）「世界手洗いの日：手をあらおう・手をつなごう」（アバンセ：ばぶばぶフェスタ会場にて）
- 10月19日（水）「世界手洗いの日：手をあらおう・手をつなごう」（佐賀市：中央保育園）
- 10月27日（木）～28日（金） 日本ユニセフ協会学校事業部 ユニセフキャラバン 佐賀県訪問
佐賀県庁 佐賀市立大和中学校 佐賀市立兵庫小学校
- **10月30日（日）ユニセフチャリティーバザー（佐賀玉屋アーケード）**
※5月に予定していたバザーを延期していましたが、10月30日に実施します。
バザー開始 14：00～15：30（完売次第終了）
皆さまからのバザー品のご提供をお願いします。（事務局までご連絡ください）
- 11月28日（月） 出前授業 柳川市立矢ヶ部小学校
- 12月15日（木） 出前講座 国際ソロプチミスト佐賀西部卓話「女性と女兒のために」（武雄センチュリーホテル）
- **12月11日（日）12月18日（日）第38回ユニセフ ハンド・イン・ハンド**
テーマ「栄養不良から小さな命を守ろう」
世界では、年間約295万人の子どもが栄養不良で命を落とし、また1億5900万人もが、乳幼児期の栄養が足りず、健全な成長を阻まれています。ユニセフは、母子をケアする検診や栄養補給、母乳育児の推進や保健員の養成など、乳幼児の栄養不良の改善に全力で取り組んでいます。
皆さまのボランティアご協力をお願いします。
※会場等の詳細は、Facebook・ホームページで後日ご案内します。



活動詳細

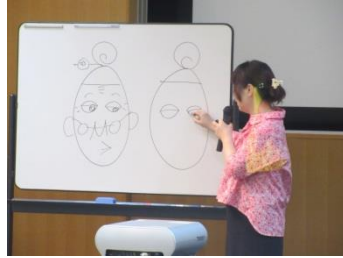


「もったいないばあさん」の
真珠まりこさんがくるよ!!

主催：佐賀県ユニセフ協会 共催：佐賀市立図書館
絵本作家の真珠まりこさんをお招きして、「おはなし会」と「講演会」を開催しました。また、ギャラリーではパネル展を開催しました。

I 「おはなし会」(佐賀市立図書館開館20周年記念) 9月11日(日)

小さな子ども連れの大勢の参加がありました。真珠まりこさんの優しい語り口に子どもたちも聞き入っていました。「もったいないばあさん」絵かきうたで上手にもったいないばあさんの絵を描いたり、「もったいない音頭」で楽しく踊ったりしました。



II 講演会「もったいないばあさんと世界の子どもたち」(佐賀県ユニセフ協会) 9月11日(日)

午後からの講演会も会場いっぱいの参加者でした。真珠さんのお子さんが4歳のときに「もったいないってどういうこと？」と尋ねられたときに、分かりやすく説明する言葉が見つからず、子どもにも分かるように絵本にしたこと、「もったいない」は「敬うこと」、「いろんな問題は全部つながっている」こと、多様性の大切さ、様々な環境で生きている世界の10人の子どもの事例等々を分かりやすくお話しくださいました。会場では小学生や中学生の皆さんも熱心に聞いていました。



III パネル展「もったいないばあさんのワールドレポート展」(佐賀県ユニセフ協会/佐賀市立図書館) 9月9日(金)～9月15日(木)まで佐賀市立図書館2階ロビーギャラリーで開催しました。

「もったいないばあさんのワールドレポート展」は、いま地球のうえで起きている様々な問題と私たちの暮らしとのつながりを考えさせるパネル展でした。気候変動、生き物がきえる問題、食料と水の問題、戦争、難民、児童労働…。もったいないばあさんがガイド役として説明をしています。



【アンケートより】 講演会「もったいないばあさんと世界の子どもたち」
パネル展「もったいないばあさんのワールドレポート展」

- 現在、様々な問題が起きているということを改めて分かりやすく、また、自分たちとも関係がある問題として提議されていました。今起きている様々な問題は決して他人事ではなくて、自分たちと繋がっていること、そして未来にかかわることとして真剣に考えていくきっかけになりました。ありがとうございました。
- いろんな国のいろんな問題をかかえている10人の子どもたち。子どもはどこで生まれようと健康に生きて、学ぶ機会を得られて、自分の夢を持って成長する権利を持っている。しかし、生まれながらにして水汲みに長い時間をかけて子ども時代を過ごす子ども、親の借金返済のために児童労働で働かされて学校へ行けないまま大人になる子どもなどがたくさんいることを知りました。今、この時代に子どもたちが、元気で学校へ行けるようになるのってそんなに難しいのだろうかと思いました。子どもはすぐに大人になります。みんなが学校へ行けるようにするには、みんなの力が必要なのでは…と思いました。日本でも子どもの貧困が6人に1人と言われています。貧しいと自分の行きたい学校へも行けず就きたい仕事にも就けず、貧困の連鎖が心配されます。みんなが学校へ行けますように。
- まず、真珠さんの問題意識と発想・表現の柔軟性に感動です。「もったいないばあさん」以外の絵本もインパクトがありました。ワールドレポート展も、子どもたちの声ともったいないばあさんのガイドでより身近に地球市民として人の痛みが聞こえてきます。ありがとうございました。先生の益々のご活躍を祈ります。
- 日本の大人・子どもたちがどんなに恵まれた環境の中で平和に暮らしているかを感謝できるように、もっともったいないばあさんのことを一人でも多くの人たちに知ってもらえたらと思い、私も微力ではありますが応援させていただきます。



ご支援
ありがとうございます

三里小学校様 佐賀リハビリテーション病院様 母子草様 佐賀こども劇場様

循誘公民館様 佐賀友の会様 佐賀共栄銀行様 さが市民活動プラザ様 ライフデザイン様
カイセイ薬局伊万里駅前店様 錦粧様 西与賀公民館様 高齢・障害・求職者雇用支援機構様
千代田中部小学校成人委員会様 本庄公民館様 ヘルスランチあららぎ様

(2016年6月29日～2016年9月15日)

- ☆ いろいろな形でのご支援・ご協力に心から感謝申し上げます。
個人の皆さま方からもたくさんのご支援ご協力をいただいておりますが、
この欄でのご紹介は学校・企業・団体様等のみにさせていただきます。



賛助会員募集中！ 日本ユニセフ協会賛助会員としてご協力ください。

(公益財団法人日本ユニセフ協会の賛助会費は、ユニセフ募金や寄付金と同様、寄付金控除の対象になります。)

日本ユニセフ協会賛助会員とは

日本国内での募金活動、広報およびアドボカシー（政策提言）活動を担う日本ユニセフ協会を、賛助会費によって支援していただく協力方法です。賛助会員になってニュースレターや資料を入手して理解を深め、世界の子どもの状況やユニセフと日本ユニセフ協会の活動を知り、できる範囲で行動する機会にさせていただくことができます。

賛助会員の種類と期間

1. 一般賛助会員 1口 5,000円…個人の方が対象
 2. 学生賛助会員 1口 2,000円…学生の方が対象
 3. 団体賛助会員 1口100,000円…企業、団体、有志のグループなどが対象 期間は、1年ごとの更新。
- ❖詳細については、佐賀県ユニセフ協会までお問い合わせください。



ユニセフって なあに？



ユニセフの活動

ユニセフは世界の子どもたちが健やかに成長できるように、他の政府機関や各国政府、NGOなどと協力しながら活動を行っています。

今回は「教育」についてご紹介します。

教育は基本的人権であり、質の高い教育は個人および社会全体の発展と豊かな暮らしのために必要不可欠です。1999年、1億800万人の子どもたちが小学校に通っておらず、そのうち3分の2が女の子でした。

2013年時点で、いまだ約5,900万人の子どもたちが小学校に通えていません。教育は、子どもがその能力を十分に伸ばしながら成長し、社会に参加し、また次の世代を健やかに育てていく基礎になります。

ユニセフは、男の子も女の子も平等に学ぶ機会を得て、質の高い教育を受けられるよう、学習資材の提供、学校施設の整備、教員へのトレーニングなどを支援しています。

緊急支援時の教育

紛争や自然災害などの緊急事態で、子どもは最も影響を受けやすい存在です。そして緊急事態下や復興に向けた社会のなかで、子どもたちの教育は後回しにされがちです。しかし、教育は子どもの基本的人権というだけではなく、緊急事態下の国や地域社会の再建を後押しする、大きな力になります。

ユニセフは被害を受けた校舎の修繕や臨時の学校を設け、教科書やノート、文具などを含む教育キットを提供し、緊急時でも教育を可能にしています。また、子どもたちの心のケアの一環として、安全に遊べる場所を提供し、スポーツや遊びを可能にするレクリエーションキットの配布、カウンセラーの派遣も実施しています。

なぜ緊急時に教育が必要？

紛争や災害などの緊急事態は子どもたちの生活を一変させ、心身の健康や発達・成長にさまざまな影響をもたらし、時には心に大きな傷をあたえます。そのような緊急事態下に、教育がもたらす効果は多岐にわたります。

- ① 学校に通うことで、守られた環境でケアを受けることができる。
- ② 拉致、搾取、武装勢力に徴用される等から子どもたちを守ることができる。
- ③ 危険から身を守る方法、病気の予防や適切な衛生習慣などの知識を得ることができる。
- ④ 友達との交流の場や心のケアを通じて、心の傷を乗り越える手助けになる。
- ⑤ 「日常」を取り戻し、普段の穏やかな感情に戻ることができる、緊急事態下の心の癒し場所になる。
- ⑥ 子どもが学校に通うことで、両親は生活を立て直すために時間を費やすことができる。
- ⑦ 長期的には、教育を受けた子どもたちが紛争や被災後の社会の形成に、重要な役割を担うことができる。

「子どもにやさしい空間」

ユニセフは緊急事態下で避難民施設などにいち早く「子どもにやさしい空間」を設置しています。緊急時、子どもたちは恐怖や喪失の体験、危険な状態からの避難、避難先での不自由な生活など、多くの困難に直面します。「子どもにやさしい空間」とは、子どもたちが安全に安心して過ごすことのできる学びや遊びの場です。子どもが子どもらしくいられることは、心身の健全な成長にとって重要であり、学校や遊びの場などの「日常」を提供することは、食糧や飲料水、医薬品の支援と同様に大切です。

- ① 紛争などの緊急事態が子どもたちの教育の大きな壁になっている。紛争地で暮らしている小中学校の学齢期（主に5歳—15歳）の子ども1億920万人のうち、およそ4人に1人が教育の機会を失っている。
- ② シリアでは、紛争の拡大が、子どもたちの教育に暗い影を落としている。学校通っていない子どもの数は、2012年時点の30万人から、2013年末までに180万人に激増した。



テントの学校



学用品の配布



子どもにやさしい空間

(写真はすべて日本ユニセフ協会HPより)

【資料提供：日本ユニセフ協会】



の仲間たち!

佐賀清和中学校 ユニセフ委員会のみなさん ー佐賀市ー



私たちは佐賀清和
中学校のユニセフ委
員会です。毎年9月
に行われる清和祭に
合わせて各クラスから
有志2名総勢15人で活
動しています。

佐賀清和学園の文
化祭、体育祭である
清和祭。その中の文
化祭で私たち中学生
はクラスバザーを行
います。品物は生徒、
保護者、先生で声か
けをして集めます。

日用品やぬいぐるみ、洋服、そして生徒の手作りの品などたくさんの品が集まり、それを
私たち生徒の手でひとつひとつ値段をつけていきます。

清和祭当日は売り子になって、益金を佐賀県ユニセフ協会にお届けしています。
少しでもたくさん売れるように、天井や教室を飾り付けたり、黒板にアートをしたりと楽し
い雰囲気を作りました。このバザー活動はもう20年以上続く伝統行事になっています。

ユニセフとの出逢い…とあらためて聞かれると、まずは小学校の時に漢字帳に書いてある
ものを思い出します。それから中学に進学してからはDVDで3年間学習をしました。
やせ細った子どもが母親の胸に抱かれて大きな瞳をこちらにむけている映像、不衛生な水を
飲んでいる子どもたち、学校に行きたくても行くことができないと話す私たちと同じ年くら
いの子どもの話がとても強く印象に残っています。

それをみて、水を大切にしないといけない事、毎日の生活が大変な国があるのに自分は
なんて贅沢をして恵まれているのだろうと考えさせられました。

清和祭の期間中、校舎にはユニセフのパネルやネパールで使っている水がめなども展示し
ました。他の生徒が足を止めて見てくれるように私たちも声をかけたり、できるかぎり説明
したりしました。

私たちが今できる事は微力かもしれませんが、でも、ユニセフのボランティア活動に参加す
るようになってから、将来大きくなったら、どんな形であれ、困っている人の役に立ちたい
と思っています。

(語り：佐賀清和中学校ユニセフ委員会、取材：高原陽子)